

3. 大分県のがんの死亡の概要

1) 全体の概要

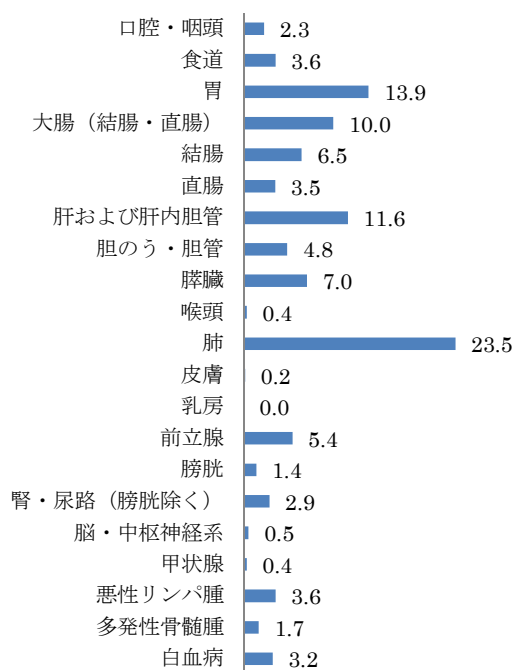
2011年に大分県において、男性2186人、女性1563人、合計3749人が、がんによる死亡であった。

男性の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、胃がん、肝および肝内胆管がんで、それぞれ23.5%、13.9%、11.6%であった。

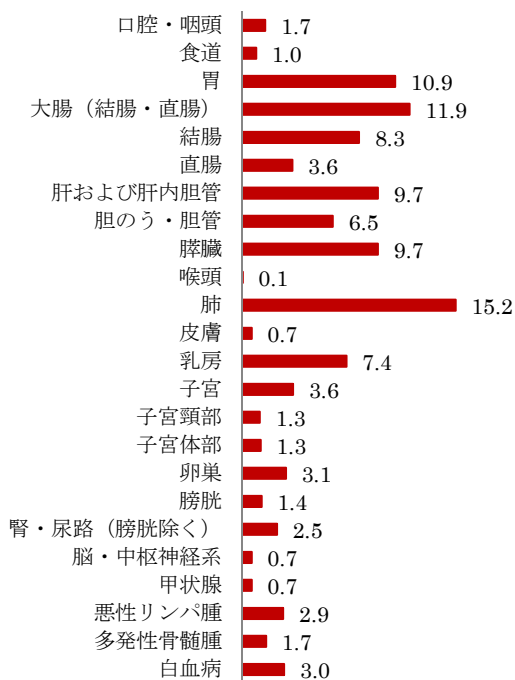
女性の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、大腸がん、胃がんで、それぞれ15.2%、11.9%、10.9%であり、罹患割合の第1位にあった乳がんは、死亡割合では6位(7.4%)となっていた。

男女計の部位別に見ると、死亡割合が高い順に肺がん、胃がん、大腸（直腸・結腸）がんと肝および肝内胆管がんで、それぞれ20.0%、12.6%、10.8%であり、罹患割合と比べると、肝内胆管がんの順位の上昇が認められた。*表9参照

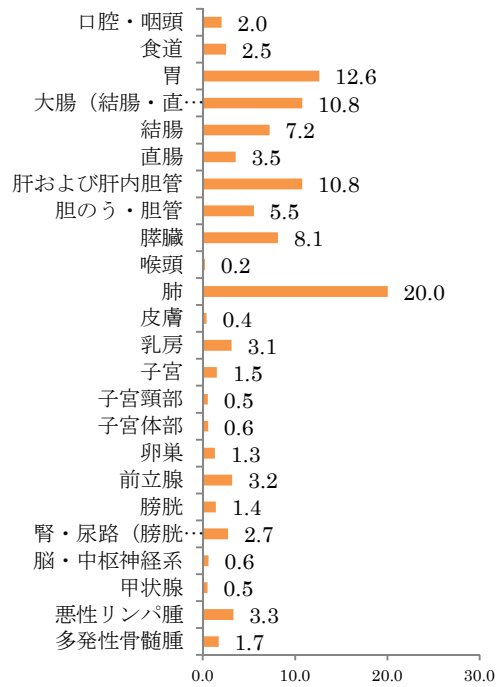
男性 全年齢 (%)



女性 全年齢 (%)



男女計 全年齢 (%)



2) 年齢階級別に見たがんの概要

男女ともに大分県で2012年のがんで死亡された方の約8割が65歳以上であった。ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほど罹りやすくなるため、がんによる死亡数も高齢者が多い。乳房と子宮は年齢が比較的低い時期から死亡率が上昇する。